

児童デイサービスあそぼう  
多機能型 児童発達支援・放課後等デイサービス  
支援プログラム

児童デイサービスあそぼうでは、  
「あそんで自分を育てよう！」を基本に、  
☆あそびの中で人とのつながりの大切さ  
☆失敗から学ぶ大切さ  
☆お互い助け合いながら生きていく大切さ  
の3つの大切さを子供たちに教えていきます。

令和6年4月より、子供たちの支援を

- ① 健康・生活
- ② 運動・感覚
- ③ 認知・行動
- ④ 言語・コミュニケーション
- ⑤ 人間関係・社会性

の5領域に分けて、利用する子どもたちそれぞれの障がいや発達等の特性や好きなことや苦手なこと、保護者のニーズ、または通っている幼稚園や学校の担任、関係事業所からの意見を聞きながら、何が支援に必要なか十分に話し合っていていきたいと考えています。

支援では子ども一人一人の気持ちを尊重し、子どもに寄り添って同じ目線に立って同じペースで取り組んでいくよう心掛けます。

児童デイサービスあそぼうでの5領域の支援内容は下記のように行います。

① 健康・生活

- (1) 健康管理について、日頃行う体温チェック・手洗い・消毒・子どもと関わった中での心身の状態を確認等、職員みんなで行うようにし共有します。なかには体温調整が難しい子どももいるので、普段から水分補給や休憩を設ける、室内の温度調整に気をつけていきます。体温調整が難しい季節の変わり目や梅雨時、30度以上の暑い時期や寒い時期は特に気をつけて定期的な体温チェック、水分補給等子どもそれぞれの状態によって管理をしていきます。

- (2) 生活に関して、1日の生活リズム(食事、排泄、更衣、入浴、睡眠等)の中で子どもそれぞれの苦手なことや保護者のニーズに基づいて支援していきます。

- 例)1、食事で偏食が多い(野菜を食べない、お菓子しか食べない等)  
2、食事でお箸やスプーンを使わず手で食べてしまう  
3、みんなと一緒に食事を食べてくれない  
4、排泄でトイレに行くことを忘れ漏らしてしまう  
5、便を自宅ではできるが、学校や事業所では出来ず我慢してしまう  
6、洋服やズボンがいつも裏表で着てしまう  
7、洋服がいつも同じ服を着ている  
8、自宅でお風呂をずっと入っていない  
9、いつも夜遅くまでゲームをして、朝起きられない

etc・・・

※生活に関しては、保護者や幼稚園・学校、関係事業所と協力しあいながら情報を共有して取り組んでいきます。

## ② 運動・感覚

- (1) 運動は幼稚園や学校での様子を担任から聞き、また保護者から普段の様子を聞いて、今子どもに何が苦手か、何に困っているかの情報をまとめる。その情報をもとに、支援する子ども本人にあった内容を職員で決めていきます。その時、子どもが好きなあそび等の中で楽しみながら支援していく内容にしていく工夫をします。  
身体を動かす(おにごっこ、ドッジボール、自転車、サッカー等)  
○走ったり、逃げたり、止まったり等好きなあそびの中で同じ子どもたちの刺激を受けながら楽しく学んでいく  
手や指を動かす(アイロンビーズ、絵を描く、つみき等)  
○決まった場所に置く、見本を見て同じように描いてみる等  
その他、それぞれに子どもたちにあった運動
- (2) 感覚で、「感覚過敏」がありますが子どもが苦手な感覚を事前に情報を保護者等から聞き、職員みんなで共有するようにします。また、日頃の活動の中で子どもの苦手な感覚でパニックになったり、声をあげたり等が出た場合はその状況を理解し、本人が落ち着くまで支援していきます。「感覚過敏」に関しては、治すではなく苦手だと子どもが知って受け止めること、対処の仕方を子どもと一緒に見つけること、出来そうで

あればその苦手な状況を避けること等を学んでいきます。

#### 「感覚過敏」種類一覧

- 聴覚過敏・・・突然の音や騒音が苦手  
(飛行機の音や掃除機の音が苦手等)
- 視覚過敏・・・光や色、物の動きが苦手  
(蛍光灯の光や人混みが苦手等)
- 味覚過敏/嗅覚過敏・・・味や臭いが苦手  
(味(辛さや甘さ等)が極端に嫌う、町中や生活上のにおいが極端に気になる等)
- 触覚過敏・・・人から触られたり、特定の感触が苦手  
(汚れることが極端に嫌がる、粘土や砂場で遊ばない)

### ③ 認知・行動

- (1) 毎回のタイムスケジュールをそれぞれの子どもたちに教えて、今何をすべきか教えていきます。時計を見て理解するのが難しい子どもたちに関しては、次の行動に移る時にその子と一緒に時計を見て「今何時？」と確認して、「次何をしますか？」と声掛けをしてサポートをし、いずれ声掛けしなくても本人自ら行動出来るように支援していきます。  
また、気持ちの切り替えが難しく次の行動になかなか移せない場合(好きなあそびをして終わりたくない行動をした時は特に)は、その子どものも特性や性格を踏まえた気持ちの切り替え方を考え、その子どもにあった対処を見つけていきます。その方法が保護者や幼稚園や学校の担任、または関係事業所の情報やアドバイスを踏まえながら取り組んでいきます。

### ④ 言語・コミュニケーション

- (1) 言語で読み書きが苦手な子どもがいたら日頃の活動になかで学ぶ機会を作ります。
  - かるたやすごろく等文字を使ったゲームであそぶ
  - 年賀状や目標等、行事時に書いてみて文字に誤りがないか様子を見てみる
  - 絵本を本人と一緒に声に出して読んでみる
  - 苦手な漢字があればインターネット等で問題を取り寄せ、本人と一緒に学びながら覚えていく
  - 日頃の活動の中で、言葉が悪い言動や人を呼び捨てにしたりする言動は声掛けをして注意し、言ったらダメなこと、言ったらどうなるか

教えていく

ect…

※言語は幼稚園や学校の勉強の状況を担任に確認し、自宅での宿題の状況を保護者から確認しながら、何が苦手ですみずいてるか把握するようにする。

- (2) コミュニケーションが苦手な子どもたちに関しては、苦手と思う気持ちを十分理解したうえで支援に取り組むよう心掛けます。
- 言いたいのに言えない、言いたいけど我慢してしまう、伝えられなくて奇声を上げたり、手がでてしまう…等、その状況ですぐ注意するのではなくて子どもの目線に立って話を聞くようにします。その時どうやったら気持ちを伝えられるか一緒に考えていきます。また、気持ちを伝えられるサポート(定期的に子どもに話しかけてみたり、困りことはないか聞くようにする等)を職員が支援します。
- 障がいや発達特性によってコミュニケーションの仕方が上手くできない子どももいるので、絵カードや身振り等それぞれ本人にあった方法を見つけながら相手に伝える工夫をしていきます。
- 言葉の遅れや吃音がある場合はまずその本人の状況を理解し、子どものペースにあわせ、ゆっくり伝える工夫を本人と一緒に考えます。

## ⑤ 人間関係・社会性

- (1) 日頃のあそびのなかで人間関係や社会性を学ぶ
- 公園等の遊具であそぶ時、順番を守らないで乗ろうとする
  - 意見の食い違いでけんかになった場合、間違っことをしても謝れない
  - 人があそんでる物を何も言わないで取ったり、壊したりする
  - 野球等のルールがあるあそびで自分勝手にルールを変えてあそんでしまう
  - カードゲーム等の勝ち負けがあるあそびで1番になれなかったことに怒って相手をたたく

ect…

子どもそれぞれが好きなあそびの中で上記な状況等が起こった時、何がダメだったのか、どんな行動が正しかったのか本人と一緒に考えずこしずつ理解して正しい行動が取れるよう学んでいきます。

また、許す大切さや「ごめん」って言う大切さを学んでいきます。

- (2) 社会生活の中で、もっとも大事な挨拶を学びます  
学校からあそぼうが迎えたら先生に「さようなら」  
あそぼうに来たら「ただいま」  
お菓子をもらったら「ありがとう」  
間違ったことをしたら「ごめんなさい」等  
日頃生活するうえで大事な挨拶を子どもたちから進んで言えるよう声  
掛けして支援していきます
- (3) 社会性に関しては、発達特性によって空気が読めなくて間違った行  
動をとってしまう、相手の言うことが理解できずその場の状況と異なっ  
た言動を言ってしまう、物事をはっきり言いすぎて相手を怒らせてしま  
う等で上手く人と関われない理由により、社会性を築けないでいる子  
ども達もいるので、十分に本人の気持ちに寄り添い理解しううえで支援  
していくよう心掛けます。

※人間関係・社会性は子ども一人一人にとってニーズが幅広いので、よ  
り保護者や幼稚園・学校の担任、関係事業所の情報を聞き、本人の気  
持ちを踏まえながら支援していくようにしていきます。

**この5領域の内容のもと「個別支援計画書」を作成していきます。**

**日頃の支援に関しては、子ども一人一人や保護者、職員みんなが支えあって励ま  
しあいながら心から笑える「児童デイサービスあそぼう」であるよう日々頑張っ  
ていきます！！**